

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
 (仮称) 総白鳩 未来フィールド計画新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		基本設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>									<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15				<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-		
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	<b>3.0</b>	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	<b>3.0</b>	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.00	<b>3.0</b>	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.00	<b>3.0</b>	-		
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.6</b>	0.35				<b>2.6</b>
2.1 室温制御				<b>3.0</b>	0.50				
1 室温				3.0	0.38	<b>3.0</b>	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	<b>3.0</b>	-		
3 ソーン別制御性				3.0	0.37				
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	<b>3.0</b>	-		
<b>3 光・視環境</b>				<b>2.6</b>	0.25				<b>2.6</b>
3.1 屋光利用				<b>1.8</b>	0.30				
1 屋光率				●自然 A(全国版準用)	1.0	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口									
3 屋光利用設備				●自然 B(推奨内容)	3.0	0.40			
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30				
1 屋光制御				●自然 B(推奨内容)	3.0	1.00	<b>3.0</b>	-	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-		
3.4 照明制御				<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.0</b>	0.25				<b>3.0</b>
4.1 発生源対策				<b>3.0</b>	0.50				
1 化学汚染物質				3.0	1.00	<b>3.0</b>	-		
4.2 換気				<b>3.0</b>	0.30				
1 換気量				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
2 自然換気性能				●自然 A(全国版準用)	3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	<b>3.0</b>	-		
4.3 運用管理				<b>3.0</b>	0.20				
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御				3.0	0.50				
<b>Q2 サービス性能</b>				-	0.30				<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>				<b>3.7</b>	0.40				<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>3.3</b>	0.40				
1 広さ・収納性				1人あたり執務スペース9.648㎡	4.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画				●大切 D(独自基準)	3.0	0.34			
1.2 心理性・快適性				<b>4.6</b>	0.30				
1 広さ感・景観 (天井高)				●とも C(独自加点)	5.0	0.34	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース				執務室内に天井無し。梁下有効高さ3.0m	5.0	0.33			
3 内装計画				●自然 D(独自基準)	4.0	0.34			
				食堂内に自販機設置予定。リフレッシュスペース1%以上					
				地域産木材を内装利用。パースにて照明計画等を実施。	4.0	0.34			
1.3 維持管理				<b>3.5</b>	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				外壁にフッ素樹脂塗装、防汚性の高い内装材仕様等	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30				<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.6</b>	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				●大切 A(全国版準用)	3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				ビニル床タイル、タイルカーペット、ビニル床シート20年	5.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				上位2種類以上にB以上を使用。Eの使用無し。	5.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20			

2.4 信頼性					2.2	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性					3.4	0.30			3.4
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30			
1	階高のゆとり			階高さ4.2m	5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率0.16	4.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	3.0		
3.3 設備の更新性					3.0	0.40			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38			2.4
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30			3.0
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性									3.8
LR1 エネルギー					-	0.40			4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				自動計算による	4.9	0.04			4.9
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.12			3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.51	5.0	0.60			5.0
4 効率的運用					3.5	0.24			3.5
集合住宅以外の評価					3.5	1.00			
4.1	モニタリング			使用電力量の中央監視設備の設置	4.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
集合住宅の評価									
4.1	モニタリング				3.0	-			
4.2	運用管理体制				3.0	-			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.5
1 水資源保護					3.4	0.20			3.4
1.1 節水				自動水栓、女性トイレは擬音機能付き	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減					3.6	0.60			3.6
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	ビニル床タイル、ビニル床シート、置き敷き床材にリサイクル材を使用	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	OAフロアを採用	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.3	0.20			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				壁材、床材接着剤に使用	4.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮				自動計算による	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮					3.0	0.33			3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.3	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制			駐車、駐輪場、自動二輪駐車場確保	3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				4.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	0.50			
2	振動				3.0	0.50			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				-	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる